

第37回中東協力現地会議

サウジアラビア カントリーレポート



2012年8月27日
駐サウジアラビア特命全権大使
遠藤 茂

1. サウジ内政の現状

(1) 発展するサウジ

- 高学歴の若者，青年層の活力(人口の50%以上が24歳以下)。
アブドゥラー国王の改革政策(女性の権利，教育重視)
- 石油収入を原資として国土開発・産業発展・人材育成・高等教育を積極的に推進

(2) 高齢化するサウード家の主要王族

- アブドゥラー国王(1924年生)
- 1年未満で2度の皇太子の薨去(2011年10月スルタン皇太子，2012年6月ナーイフ皇太子)

(3) 治安的問題

- サウジ東部州のシーア派，イエメン情勢のサウジ政府への影響
- イランのGCC諸国に対する「内政干渉」

2. サウジ外交の現状

(1) 最大の石油資源国

●サウジは最大の石油輸出国として世界のエネルギー供給、ひいては世界経済のために貢献

●サウジはアラブで唯一のG20メンバー

(2) 親米地域大国・イスラムの盟主

●サウジはイスラム二聖地の守護者であり、イスラムの盟主（毎年のハッジ巡礼300万人規模）

●開発途上国・被災国に対する一大ドナー（1973年以降の支援実績は95カ国に対し1000億ドル）

●所謂「アラブの春」によりエジプト等の役割が低下、相対的にサウジの重みが増大

●地域の安保・治安のために米国と緊密に連携

●サウジはイスラム協力機構(OIC)(本部ジッダ)とも連携

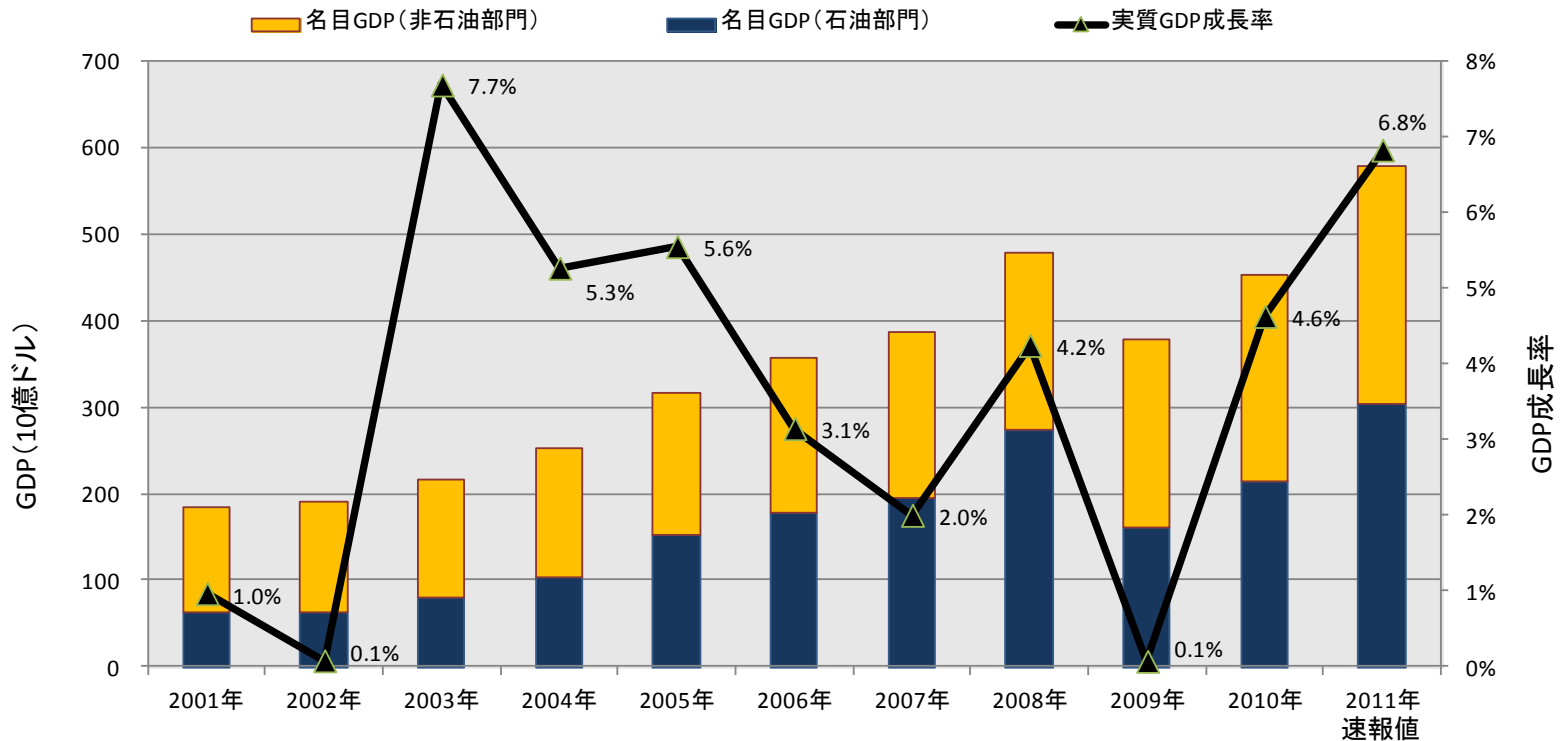
(3) 対イラン関係

●イラン核開発の動きやGCC諸国への「内政干渉」を警戒

●シリアを巡っても対立

3-1. サウジ経済の現状(マクロ経済動向)

- ・原油価格の高止まりと、政府の旺盛な公共投資により、名目GDPは順調に伸びている。
- ・物価上昇を考慮した実質GDPも堅実な成長を遂げている。
- ・物価上昇率は2009年以降は5%前後で推移している。物価上昇の主な要因は、不動産関連(家賃)および飲料・食料品関連の価格上昇によるもの。
- ・政府もインフレ抑止策に力を入れており、物価上昇率は、全体的には低下傾向にある。



名目GDP総額と実質GDP伸び率

出典: サウジ通貨庁

3-2. サウジ経済の現状(国家財政)

- ・政府財政は盤石。
- ・2011年は、想定原油価格56ドルの赤字予算(1,440億ドル)を作成していたが、結果的には2倍以上の歳入(2,960億ドル)があった。
- ・2012年は、想定原油価格を69ドルとし、1,872億ドルの歳入と1,840億ドルの歳出を見込んでいる

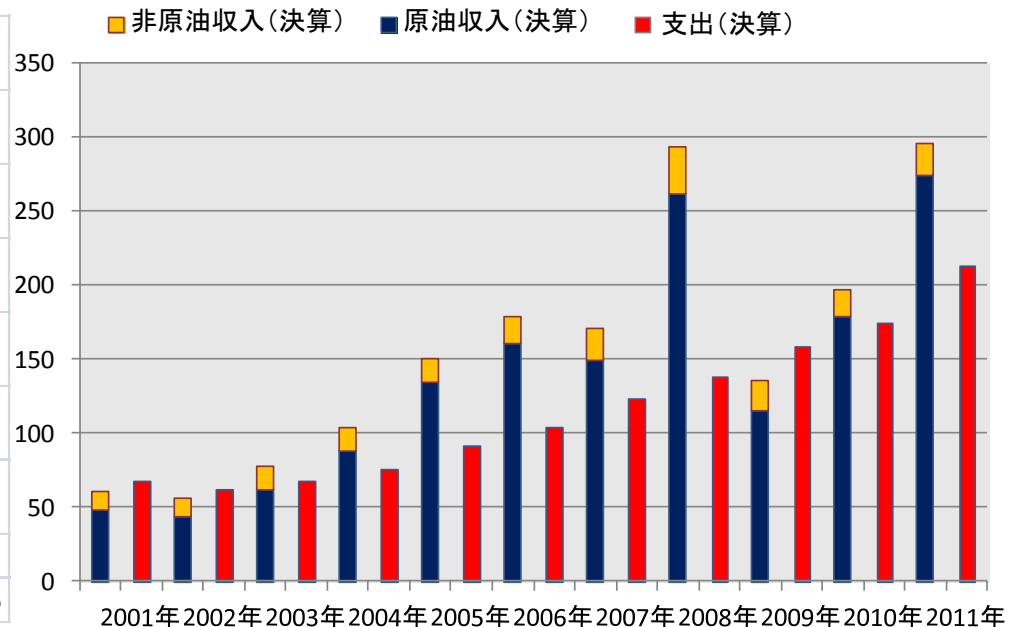
2012年予算の部門別支出

	予算額 (10億ドル)	割合	前年比
教育・ 人材開発	450	24%	13%増
保健・ 社会保障	231	13%	26%増
地域整備	78	4%	19%増
運輸・通信	94	5%	40%増
水・農業・ 公共投資	153	8%	13%増
その他	834	45%	20%増

※四捨五入の関係上数値にずれあり

※「その他」には、軍事費や王族関係等の費用が含まれると推察される

出典: サウジ通貨庁

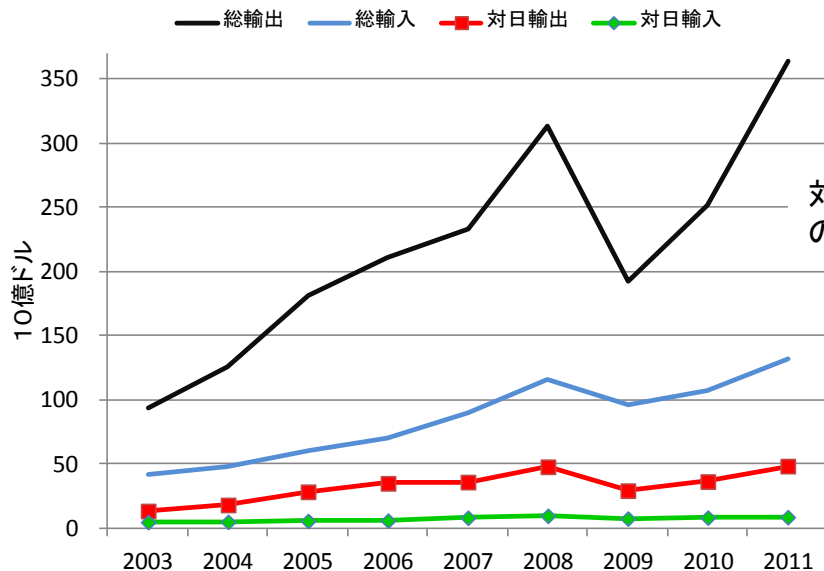


サウジ政府の歳入・歳出

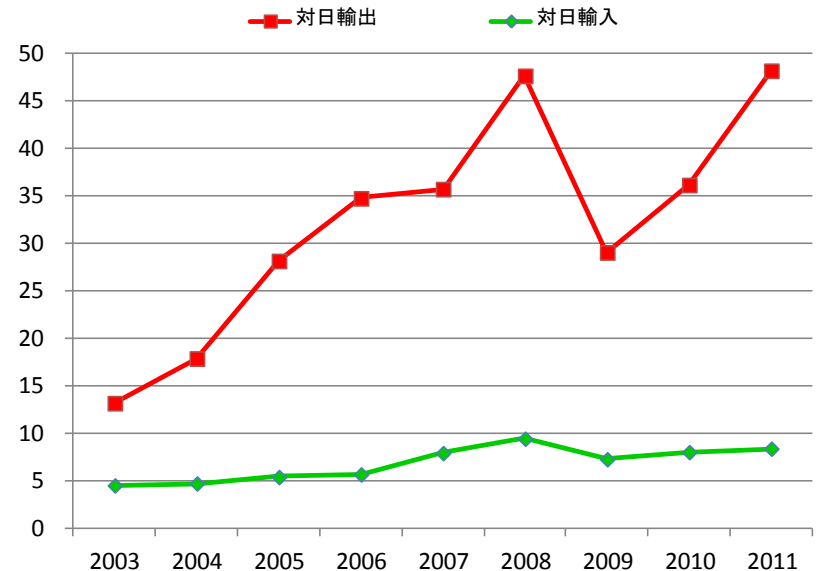
出典: サウジ通貨庁

3-2. サウジ経済の現状(貿易, 日系企業数)

- ・サウジ→日本は482億ドル(主に石油) サウジにとって日本は米国に次ぐ第2位の輸出国(3位中国, 4位韓国)(2011年)
- ・日本→サウジは84億ドル(主に自動車, 機械部品) サウジにとって日本は中国, 米国, ドイツに次ぐ第4位の輸入国(2011年)
- ・2011年の対日原油輸出量は, 1087KB/D(日本の原油輸入の約3割)
- ・2011年10月現在のサウジ駐在日系企業数は92社



対日輸出入のみ拡大



出典: サウジ通貨庁

サウジ総輸出・輸入額 対日輸出・輸入額

4. 石油・エネルギー動向

世界最大級の原油生産量(※)と世界第2位の原油埋蔵量を誇るが、経済の急成長・急激な若年人口増加に伴って急伸する国内エネルギー需要への対処が喫緊かつ最大の課題

(※)2011年平均値では、第1位:サウジ(1,116万BD)、第2位:ロシア(1,028万BD)であるが、両国の生産量は拮抗しており、順位は頻繁に入れ替わっている。(出典:BP Statistical Review)

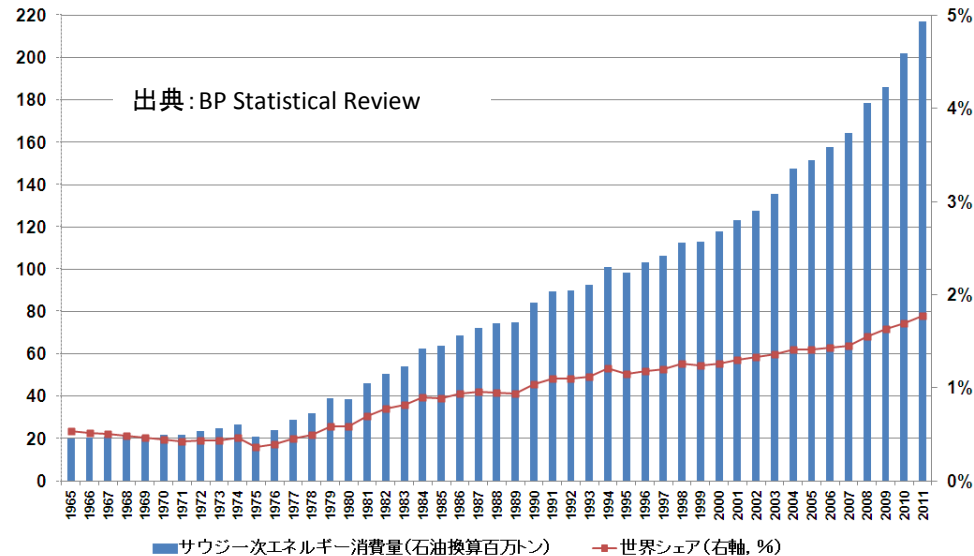
サウジ国内エネルギー需給の特徴

- ✓ 1次エネルギー消費は100%石油・ガス
- ✓ 安価なエネルギー価格(国際価格の3-20%)
- ✓ 精製能力を超える製品需要 (出典:水電力省)
- ✓ 年率7-8%の電力需要増加



国家収入の90%を占める原油輸出量維持への取り組み

- ✓ 油田・ガス田開発
 - 油田回収率改善のための投資・紅海沿岸での新規探査・非随伴ガス田の開発
- ✓ KACARE(アブドゥラー国王原子力・再生エネルギー都市)の設立
 - 2032年までに12-16基の原子力発電所建設(合計21GW / 1000億ドルの投資)を目標
 - 2032年までに太陽光・太陽熱発電で国内電力需要の1/3(41GW)を賄うことを目標
- ✓ SEEC(サウジ省エネセンター)の設立 (出典:KACARE)
 - エネルギー効率を15年以内に先進国レベルへ⇒日本を筆頭に省エネ先進国の支援が必要



5-1. サウジ経済主要課題(失業)

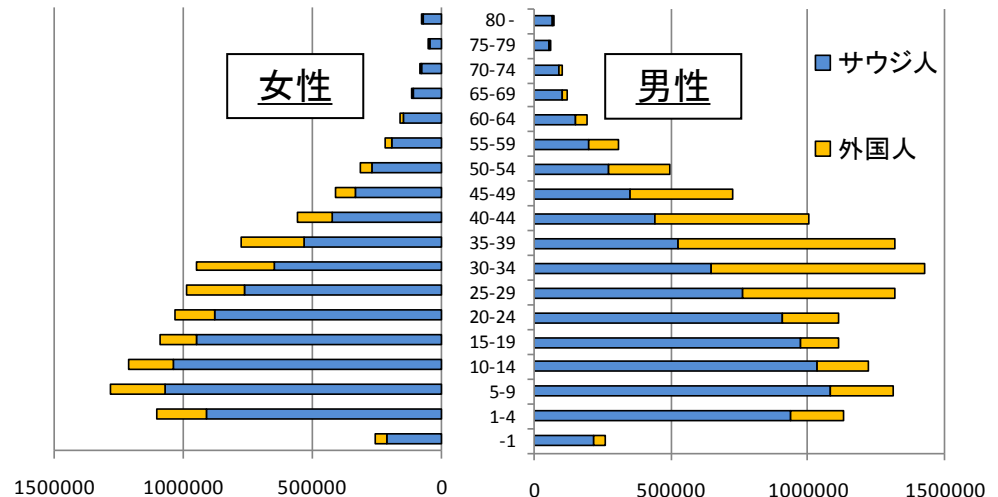
- ・サウジ人失業率は約10%(男性6.8%, 女性26.8%)であるが, 若年失業率は更に高いと推定される。
- ・今後10年間で500万人近い若者が労働市場に流入する予定。
- ・若者の失業を放置すれば, 重大な社会不安が発生する恐れがある。

【政府の失業対策】

- ・公務員・軍関係者の臨時雇用 → 公務員による雇用吸収も限界
- ・民間企業へのサウジ人雇用義務づけ → 民間企業経営者は反発
- ・女性雇用の促進(下着売り場における女性雇用の義務づけ, 女性専用工業団地建設)

【失業対策への障害】

- ・公務員と民間企業の待遇格差(公務員が労働環境, 給与面で待遇が良い)
- ・サウジ人と外国人の能力・人件費格差
(サウジ人は能力が低いにも関わらず高給を望む)
- ・サウジ人による職業の選り好み(ブルーカラーの仕事を嫌う傾向)



サウジ人口構成(2007年)

出典: 経済企画省

5-2. サウジ経済主要課題(水資源)

【サウジにおける水資源の状況】

- ・地下水への過剰依存(約90%の水資源を地下水に依存)。
- ・人口増加と経済発展により、水需要は年平均8%の増加している。しかし、地下水は枯渇しつつあり、増加する水需要は海水淡水化により賄わざるを得ない状況。
- ・海水淡水化による国内の造水量は5百万m³/日。
- ・極端に安い水道料金(東京都の約1/9)。
- ・高い漏水率(20%~30%と言われている)。
- ・急激な水需要の増加に対し、海水淡水化(蒸発法)に必要な原油を今後確保できなくなる恐れがある。

(出典:当地新聞報道等)

【政府の対策】

- ・農業分野での節水。(2016年までに、国内での小麦生産を段階的にゼロにする。その代わりに、国外への農業投資を促進させる)
- ・海水淡水化容量の効率的増強。(少ない原油消費で増水できる技術の導入。膜の活用)
- ・上下水道事業の改善・効率化(2010年~2016年の間、サウジ政府は上下水道分野に305億ドルを投資する計画)

6-1. サウジ消費市場の特徴

- ・原油・資源価格が上昇するほどサウジ市場は良質となる。
- ・相対的に消費者の目線は高く、良質な商品に対する購買力は高い。
- ・購買力の高い若年層が多い人口構造。
- ・MENA地域は、サウジとほぼ同一の言語・文化圏である。
- ・女性の購買力が高い。
- ・2大聖地を擁する国として、世界中のイスラム教徒に影響力を持つ。



- ・品質やサービスの良さなど、日本企業の強みを活かせる市場
- ・人口構造を背景に縮小が懸念される日本市場と比べ、伸び盛りの市場
- ・MENA地域4億人の市場への足がかりとなり得る市場
(サウジで成功すれば、MENA地域の消費者から一目置かれる状況)
- ・サウジ女性を対象としたビジネス市場はライバルが少ない
(女性へのアクセスの困難性)
- ・特に食品(ハラールフード等)は、最も市場の目が厳しいサウジで受け入れられれば、世界中のイスラム教徒に受け入れられる。

6-2. サウジ消費市場の特徴

ミドルエンド層が豊富に存在する。→消費市場として有望

